

第8回 グリ下会議 会議要旨

- 1 日 時 令和7年6月12日（木） 16時00分～17時30分
- 2 場 所 大阪府中央区役所7階703・704会議室（Microsoft Teams Web 会議併用）
- 3 出席者 別紙出席者名簿参照
- 4 議 題
 - (1) 第7回グリ下会議以降の取組状況
 - (2) 令和7年度のグリ下会議について
 - (3) その他
- 5 議事要旨
 - 事務局より報道非公開での開催、資料1の構成員の追加・欠席・代理出席・オブザーバー参加者の報告
 - 大阪府中央区長松田座長より開会の挨拶
 - (1) 第7回グリ下会議以降の取組状況
 - ・ 中央区役所保健福祉課長から資料2について説明
 - ・ 大阪府建設局道路河川部河川課長から資料3について説明
 - ・ 大阪府南警察署生活安全課より報告
グリ下付近、大黒橋付近にて子どもが犯罪に巻き込まれることを防止するとともに、グリ下が犯罪の温床にならないよう、巡回を強化している。
 - ・ 大阪府福祉部子ども家庭局青少年支援課非行防止対策グループより報告
 - ・ 認定NPO法人D×Pより、資料4、資料5について説明
 - ・ 一般社団法人ひとりぼっちにさせへんプロジェクトより資料6について説明
 - 主な意見・質問
 - ・ 建設局から万能塀設置後の報告において、ゴミ捨ての数や滞在者の数が減ってきたと報告があった。建設局として、設置の効果としてどう捉え、効果としてはっ

きりしているのか教えて欲しい。

- ゴミの量は減っている。若者の滞在状況でいうと、昨年に比べ少なくなっているという状況ではあるが、現時点で、本来の目的である、若者が犯罪被害にあう数が軽減されているという把握・効果としての分析が難しい。今後も、状況調査は続けていく予定である。

また、他の場所に滞留しているのではないかとということも踏まえ、大黒橋付近についても状況の把握に努めている。

- ・ 万能堀は、万博が終わった後にどのようにするつもりか教えてほしい。
- 第7回会議において、万能堀は仮設として設置したものであり、万博終了後には三角パネルのような他の手法も検討しつつ、年内を目標に設置を進めるという説明をしたが、今後の対応については、設置時期にこだわらず、関係者の皆さまとしっかりと話をしながら、検討していきたいと考えている。
- ・ 戎橋下堀設置後、大黒橋周辺の船着き場や広場のごみが増えている。朝方には、人が寝ていることもある。
- ・ 今年4月のユースセンター利用延べ人数が昨年に比べ約100名増加している。5月も引き続き増加しており、グリ下付近の若者が減っているという報告のなか、面談件数・同行の支援回数が過去最多となっているという意味について考えなければならない。
- ・ 令和7年6月4日にユースセンター交流会を開催した。中央区長はじめ中央区職員・福祉局職員と若者が交流するなかで、行政・施策への様々な意見がでた。意見交換し若者が自分の意見を伝える機会があったこと、役所の方の人柄を知ることができたことは、行政へのネガティブな印象が変わっていく非常に大きな一歩である。一方で、今回の参加者の意見が若者全体の意見ではないということも留意しながら、引き続き、若者と対話を行い、街をどのようにするのか、関係機関で検討すべきだと考える。
- ・ 決まったことへの対話ではなく、方向性を決める前に対話することが必要である。
- ・ 若者の相談対応のうち、障がい福祉のサービスの必要性が多くあり、同行による支援が増加していることから、障がい分野との連携・情報共有も必要と感じている。今後、会議参加・情報提供も含め検討してほしい。

(2) 令和7年度のグリ下会議について

- ・ 事務局より今後の開催予定を説明

(3) その他

・ 大阪市中心区役所総務課より説明

繁華街に集まる若者が、犯罪に巻き込まれないようにするための啓発動画の作成を進めている。今後も、関係者の意見を聞きながら、工夫を重ねて取り組んでいきたい。

・ 東京都より資料7-1、資料7-2、資料7-3、資料7-4について説明

昨年5月末に開設した相談窓口「きみまも@歌舞伎町」については、想定以上の利用があり、若者を支援につなぐ例が増えるなどの成果が出ている。今年度はスペースや体制を拡充し、法テラスと連携するなど、「安全」と「支援」の両面から取組を充実させていく。

また、今年も夏休みなどの長期休暇に合わせて注意喚起動画を作成し、SNS ターゲティング広告やデジタルサイネージを活用して広く発信する。

○ 大阪市中心区長松田座長より閉会の挨拶

- ・ 若者の犯罪被害の防止や、悩みへの支援が必要な状況は続いている。
- ・ 福祉の話だけに留まらず、地域にも視点を置きながら、塀の在り方や、色々な取組みは、この会議や会議の外でも連携させていただきながらやっていく。